

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている			
	やや良く なっている	一般小売店 〔酒〕（経営 者）	お客様の様子	・取引先の話聞いてると、特にホテルや高級旅館、居酒屋などといった業界が大変好調なようであり、過去にないほどの売上と話すホテル経営者もみられた。実際に、当社からの仕入も相当増えてきている。
		百貨店（売場主 任）	お客様の様子	・これまで前年並みだった来客数が前年比108%と大きく伸びた。改装に伴い月初めから2週間は売場面積が減少していたにもかかわらず、売上は前年実績、予算とも上回った。また、改装効果により、定価品の売上が前年比105%となり、客の購買意欲が感じられた。
		スーパー（役 員）	単価の動き	・商材は値上がり傾向にあるものの、客の消費は落ちていない。節約志向に歯止めがかかってきている。
		コンビニ（エリ ア担当）	来客数の動き	・1次産業が上向きになってきたことで来客数と売上が伸びている。
		コンビニ（店 長）	来客数の動き	・ちょっとしたユーモアを交えた手書きポップや新聞折込によるセールチラシの展開、同じ種類ののぼりの増加、販促物の見直しなどの効果により、9月の売上は前年比108%となった。特に、おでんの売上は前年比120%と好調であった。
		乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き	・9月は会社の決算期で営業に力が入ったこともあり、売行きが伸びている。
		その他専門店 〔ガソリンスタ ンド〕（経営 者）	販売量の動き	・原油価格が安価で安定しているため、販売量が微増している。
		観光型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・中国本土、台湾からの観光団体ツアー客が好調である。また、9月の大型連休は国内の個人旅行者を高単価で取り込むことができた。
		旅行代理店（従 業員）	お客様の様子	・旅行の新規申込が増加している。さらに、学生マーケットが活発になってきており、冬休み期間中の旅行や卒業旅行の相談件数が増加している。
		旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・9月の大型連休の効果が大きく、当店の取扱件数は前年比130%程度になった。また、9月は好天に恵まれたこともあり、観光業界全体が潤ったと聞いている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・9月は夏休みが終わっているため、売上が減少するとみられたが、9月の大型連休に観光客が多く訪れたことで、まずまずの売上であった。9月の売上を3か月前と比べると約5.5%の伸びがみられ、前年実績と比べても約2.9%の伸びがみられたことから、やや良くなっている。
		観光名所（従業 員）	来客数の動き	・9月27日までの集計だが、乗降客数は前年比106.6%と前年を上回っている。前年を上回る状況が約1年間にわたり継続していることから、やや良くなっている。
		パチンコ店（役 員）	来客数の動き	・観光客の増加による経済効果は大いにあるとみられる。ただ、潤っているのは観光業界のみのようにもみえる。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェ リー〕（従業 員）	来客数の動き	・例年より長い9月の大型連休の効果から、旅客、車両共に輸送量が増加した。	
変わらない		商店街（代表 者）	単価の動き	・買回り品の販売量が減っており、客単価も低下している。
		商店街（代表 者）	お客様の様子	・食をテーマとしたイベントが開催されたことにより、近郊の市町村からの集客が伸びた。また、9月の大型連休の効果で周辺ホテルがほぼ満室状態となり、飲食関連にも良い影響が表れている。一方、プレミアム付商品券は使用が分散化しており、効果がないという店がほとんどであった。
		商店街（代表 者）	お客様の様子	・客の様子をみても、日々同じような発言をしているため、景気は変わらない。

商店街（代表者）	来客数の動き	・中旬までのイベントなどの効果により、来街者が前年を大きく上回ったことから、飲食、宿泊、交通などで大きく売上を伸ばしたが、物販においては低調であった。また、中旬以降は来街者が目に見えて減少しており、9月全体では前年並みとなるなど、景気回復が感じられない。
商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみると、客単価が圧倒的に高い客と低い客で二極化している。ただ、客単価が高い客は若干ではあるが増えてきている。
商店街（代表者）	販売量の動き	・当地では発行されたプレミアム付商品券がすべて完売したが、販売開始時期が遅く、有効期限も来年1月末までのため、思ったほど消費が伸びなかった。ただ、客の消費は微増している。
百貨店（売場主任）	来客数の動き	・9月に入り、例年よりも気温が低く推移していたことから、秋物の動きを期待していたが、ニット、カット関連の売上が前年比110%となった一方で、ジャケットの売上が前年比80%台となるなど、ジャケットの動きが鈍かった。物産催事については前年比100%と前年並みとなっている。
百貨店（担当者）	来客数の動き	・来客数の増加がみられない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の前年割れが続いている。
スーパー（店長）	来客数の動き	・3～8月の累計で見ると、衣食住部門全体での売上は前年を上回っているものの、来客数が消費税増税前の水準に回復していない。特に衣料品の売上は前年比96%となっており、消費が回復していない状況にある。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・9月の大型連休期間中は前年を上回る売上を確保できたなど、行楽需要が大きかった。ただ、大型連休後は来客数が大きく落ち込み、月間の売上としてはここ3か月横ばいの状況が続いている。
衣料品専門店（店員）	単価の動き	・単価の高い商材の動きが鈍い。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・販売量の前年比が微増で終わるなど、客に目立った動きはみられない。
乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・消費者の購入意欲が低下しており、受注量が増加するような気配がない。ただ、他社も同じような状況であるため、地域全体としての問題とみられる。
自動車備品販売店（店長）	競争相手の様子	・冬に向けての準備として、冬タイヤの販売が増加する時期であるが、売上は前年比80%台にとどまっている。競合店も同様の状況である。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・これまで新しい医学情報について、時には経営者として不利な情報も含めて、偏見なく発信することをポリシーとしてきたが、こうした姿勢を支持する客が明らかに減少してきている。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・景気が上向いていたとみていたが、観光シーズンや9月の大型連休が終わったこともあり、売上は前年比で横ばい又はやや下回って推移している。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・9月の大型連休の曜日並びの良さもあり、9月の売上は前年を2%上回るなど、良かった。最近では当地でも特に外国人が目立つようになってきている。
観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・外国人観光客の需要がおう盛なことから、来客数は堅調に推移している。国内客も秋の行楽客がわずかながらも伸びている。
旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・農作物の一部にやや生育遅れがみられるものの、玉ねぎやビートなどの主要作物が前年並みの収穫量となっていることに加えて、水産業も順調な様子であることから、景気は変わらない。外国人観光客も好調を維持している。
タクシー運転手	来客数の動き	・9月のタクシーの売上はほぼ前年並みであった。ただ、観光客は増えているものの、観光客のタクシー利用は増えていない。
タクシー運転手	来客数の動き	・売上が前年実績とほとんど変わっていないなど、変化が感じられない。
タクシー運転手	販売量の動き	・イベントなどによる集客はあるが、平日の動きが鈍化している。小売業にとっては良いのかもしれないが、タクシー業界としては好ましくない動きである。
タクシー運転手	販売量の動き	・社員の高齢化に伴う社員数の減少により、売上が減っている。また、他産業の雇用が依然として好調なため、新入社員を確保できない状況にある。

	通信会社（社員）	お客様の様子	・客は安価な価格帯の商材を買い求める一方で、付加価値の高い高価な商材は買い求めない。ないそでは振れない状況がうかがえる。	
	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・競争力のある新商材を発売したものの、札幌圏の量販店や道内都市部における客の引き合いが前年や前々年に比べるとかなり少なくなっている。ただ、競合他社への流出も収まっているため、全体としては前年並みの契約獲得数となっている。	
	美容室（経営者）	お客様の様子	・技術売上、商品販売ともに同じような数字で推移しており、良くも悪くもなっていない状況が継続している。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・売上は少し良くなっているが、来客数が依然として減少傾向にあり、景気が良くなっているとはいえない。	
やや悪くなっている	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・売上は前年比97%と例年並みに戻っているが、3か月前と比較するとやや悪い状況にある。一方、中国人観光客は増えており、日本語が聞こえず、中国語のみが聞こえるという日も何日かみられた。1人で60万円分を購入するという中国人の爆買いを初めて目の当たりにして驚いたこともあった。	
	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・9月に入って来客数、買上客数の減少傾向が続いている。また、好調であった外国人観光客による売上も以前ほどの勢いがなくなってきた。	
	スーパー（役員）	販売量の動き	・ここ数か月、商品単価の上昇に伴い、客1人当たりの平均買上点数が前年を2～3%下回る状況が続いており、客単価の伸びがみられない。来客数についても、買回りが多いためか、増加するような傾向がみられない。	
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・秋の行楽にあわせて色々なイベントが行われていることもあり、街を歩く客が減少傾向にある。	
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・例年であれば、秋物の立ち上がりでスーツ需要のみられる時期だが、今年は客の動きが鈍くなっている。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量がなかなか伸びてこない。	
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・9月の大型連休前後で売上が減っており、やや悪い状況にある。日ごろから、観光客の多い店は、大型連休中の売上が良かったようだが、当店には影響がなかった。すすきのも同様だったようで、タクシー運転手がこぼしていた。	
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・景気回復が遅れていることで、可処分所得の実質的な減少がみられる。	
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・プレミアム付旅行券などの色々な施策が行われているタイミングにもかかわらず、受注金額の前年比が良くない。	
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・株価が乱高下しているなかで、3か月前と比べると、大分下がってきているため、客のマインドが良くない。	
悪くなっている	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・来客数に大きな変化はみられないものの、購買率が大きく落ち込んでおり、売上に結びついていない。晴天が少なかったことも購買意欲の減退に影響している。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・売上が前年比90%、来客数が前年比87%となっているのに対して、販売点数が前年比76%と大きく落ち込んでいる。客が余分な買物をしなくなってきた。	
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・当地の中心市の店舗はやや持ち直している。しかし、売上、来客数の多い郊外店、特に漁業関係の影響が大きい沿岸部の市町村の店舗の売上は悪い。また、9月の大型連休と重なったチリ地震の影響もみられた。津波を避けるため、内陸部へ移動する人が多くみられた。	
	住宅販売会社（役員）	来客数の動き	・分譲マンションのモデルルームへの来客数が減少している。	
企業動向関連 (北海道)	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・分譲マンション、老人施設などの民間建築工事を中心に受注は順調に推移している。民間の設備投資意欲は比較的強く、商材情報も多い。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・販売量が前年割れしている状態が続いているが、3か月前との比較ではやや良くなっている。

変わらない	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前とほぼ変わらない売上となっている。
	建設業（従業員）	取引先の様子	・北海道新幹線の開業日が確定したこともあり、函館圏で建設投資の動きがみられるものの、札幌を中心とした全道を潤すほどの効果はみられず、年内に着工する建築工事件数も少ない。
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・引き続き新聞巻取紙、段ボール原紙の販売不振により、輸送量が減っている。また、中京地区や東北地区での豪雨により、鉄道輸送が止まり、農産物などが海上トレーラー輸送に振り替えられる日もみられた。
	輸送業（支店長）	取引先の様子	・取引先から輸送量の増加につながるような引き合いが出ているものの、決まらずにいる。ただ、全体の仕事量が減ることもなく、輸送量の変化もみられないため、景気は良くも悪くもない状況にある。
	金融業（企画担当）	それ以外	・外国人観光客の大幅増加により、菓子メーカー、観光バス業界などは好調である。札幌市内や近郊のホテル、旅館は高稼働が続いている。設備投資は訪日客の増加や北海道新幹線の開業などにより、ホテルの新築、改装が活発である。一方、公共投資の工事発注が一巡したことで土木建設などは低迷している。
	司法書士	取引先の様子	・国の経済政策が地方経済に適應していないようにみられることもあり、一向に景気が良くなっているとは言い難い面がある。特定の業種のみが良くなっている。
	司法書士	取引先の様子	・地方では景気回復の実感がないため、支払が長期にわたる不動産取引においては、給与などが増加する確実性がないこともあり、客のためらいがみられる。そのため、成約が少ない状況となっている。
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・取引先の状況をもて、景気が良いとはいえない。コスト削減の対策を継続的に実施している会社も多いなど、設備投資を抑える傾向に変化はみられない。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・財源や労働力の確保に難しい面がある。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・公共工事減少の影響が大きく、客先の設備投資意欲は依然として低い。来年度も公共工事予算の増額が見込めないため、危機感が大きい。
やや悪くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・9月の受注量は前年に比べると増えているが、6～8月にかけての大幅な受注増と比較すると、減少傾向にある。
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・ここしばらく、周囲の景況感はやや良い状況を堅持していたが、中国の景況感の先行きが怪しくなったことで、道内企業では観光客の減少や購買力の減速を危惧した慎重な見方が広がっている。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・客先である鉄骨加工業の仕事量は前年比約80%と減少していることもあり、溶接材料の販売量が低迷している。さらに、大型設備案件は年内で納入完了の見込みとなっており、この先に向けての不安材料も多い。
悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良く なっている	-	-
	やや良くなっている	-	-
(北海道)	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・景気の緩やかな回復をみて、転職を希望する登録者が増えている。また、外国人観光客や道外からの観光客の増加により、ホテルからのベットメイクの派遣依頼が増加している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人数が67か月連続で前年を上回り、月間有効求職者は46か月連続で前年を下回った。また、新規高卒者への求人数が前年を22.0%上回っており、求人倍率は前年を0.54ポイント上回る2.51倍となっている。
変わらない	求人情報誌制作会社（編集者）	それ以外	・季節要因の大きい農産物の収穫、加工への派遣は、人手不足感も相まって人材確保の厳しさが増している。
	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・6年ぶりとなった9月の大型連休の影響で企業の求人意欲も、求職者の求職意欲も一服感がみられる。小売店や飲食店などのサービス業の求人が減少している。

	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・スーパーの店舗閉鎖や別企業への譲渡がみられるなど、小売業が不調である。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・引き続き求職者が減少しており、有効求人倍率も高い水準で推移している。また、新卒採用意欲も前年より高くなっている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は前月に減少傾向に転じたが、再び増加となっている。新規求人数は前年を8.5%上回り、2か月ぶりに前年を上回った。月間有効求人数は前年を1.6%上回り、2か月ぶりに前年を上回った。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・企業側の採用意欲は依然として高いままであるが、採用基準は下がってはいない。学生がいつまでも売手市場だと勘違いして、ゆっくりとした就職活動を続けていては、やがて今年度の採用活動が終了していったという悲惨な状況にもなりえる。
やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上が前年の3割減と大きく落ち込んでいる。売上の上位構成業種が軒並みダウンしており、特に派遣、医療、運輸運送、小売が激減している。
悪くなっている	-	-	-